

外国語活動 活動報告

小千谷市教育研究会

1 取組の概要

現在、独立した組織の設定はない。小千谷市教育研究会における部会設定も、英語部会があるが、構成員は中学校の英語教員のみである。したがって、小学校は各校ごとに自校の計画に沿って実践している状況である。

なお、5つの中学校区ごとに、小中連携の取組として、お互いの授業を参観しあったり、中学校の教員が小学校で出前授業を行ったりするなどの活動を行っている。

2 小学校の取組

- 各校で外部講師を招くなど外国語活動について校内研修を実施している。
- 今年度の完全実施に向けて、全職員で分担して指導計画を作成し実践している学校がある。
- 電子黒板を活用して、視覚と聴覚に訴えた発音学習を進めている学校がある。
- 中学校区の教員研修会で部会を設定し、連携について研究協議を進めている。
- 各校とも、A L Tを活用して、さまざまな交流活動を仕組みながら、生の英語に触れながらコミュニケーションをとる機会を設定している。
- 昨年度の県指定の外国語活動研究発表の成果を生かして、英語力を高めている学校がある。
- 市の国際理解教育推進事業で、国際大学の留学生と触れ合う活動を行っている。

3 中学校の取組

- 子どもの学習状況を把握して指導を連続させるため、校区内の小学校の外国語活動の参観を行っている。
- 中学校区の教員研修会で部会を設定し、連携について研究協議を進めている。
- 各校区とも、校区内の小学校へ出向き、出前授業を行っている。また、小学校の外国語活動をT Tで支援している学校がある。
- 小学校教員の外国語活動に関する質問に応じる用意をしている学校がある。
- 市の国際理解教育推進事業で、国際大学の留学生と触れ合う活動を行っている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ①中学校側からの積極的な取組で、小中の連携交流が図られてきている。
- ②A L Tや中学校英語教師の活用で、外国語活動が充実してきている。
- ③市の国際理解教育推進事業の活用で、国際大学の留学生と触れ合う機会が得られ、子どもたちのコミュニケーション能力の向上に役立っている。

(2) 課題

- ①市のA L Tの豊富な配置により外国語活動が充実してきているが、反面、教師自身の外国語活動の指導力が育たなくなっている恐れがある。小学校間、校種間の研究交流を深めながら、教師自身の指導力を高めていく工夫が必要である。
- ③小千谷市教育研究会と連動した研究組織の立ち上げを考えていく必要がある。